

◆ 【高温TPD-MSによる燃焼灰からの発生ガス分析】

TPD-MS法*とは、加熱制御下で試料から発生するガス成分を質量分析計により測定し、定性・定量を行う手法です。加熱温度は、1,000 °C程度までが一般的でしたが、弊社では新たに、1,500 °Cまで昇温可能な加熱炉を導入し、従来よりも高温で発生するガス成分の定性・定量が可能となりました。これまでは測定できなかった燃焼灰の、1,500°Cまでの発生ガス挙動の測定例をお示しします。

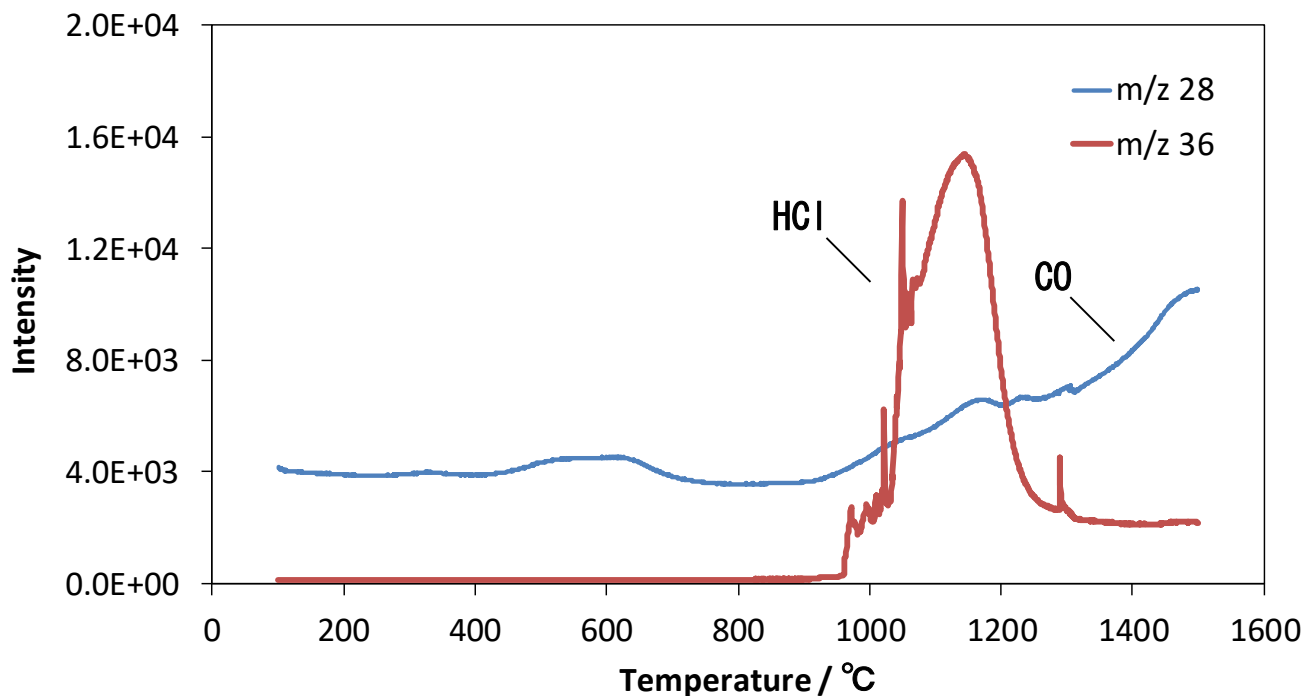
*Temperature Programmed Desorption[Decomposition] Mass Spectrometry
(昇温熱脱着[熱分解]-質量分析法)

【測定事例】

● 燃焼灰のTPD-MS測定

測定条件

キャリアガス	He
昇温条件	100 °C~1,500 °C (20 °C/min)



900 °C付近から炭酸塩に由来するCOの脱離が始まり、1,100°C付近でHClが発生することが判りました。